

琉球史（学生向けテキスト）

■ 琉球の始まり

沖縄本島、宮古、八重山を中心とする南西諸島の島々は、大陸とくっついたり離れたりを繰り返していました。いつ頃から人類が現れたのかは明らかではありませんが、大陸から人々や様々な動物が移り住んだと考えられています。

☆山下洞人（やましたどうじん）

国内では最も古い化石人骨だといわれています。那覇市の山下町第一洞穴から、約3万2000年前のものとされる子どもの骨が見つかりました。年代の確実な旧石器時代人として、世界的にも貴重な資料とされています。

☆港川人

約1万8000年前の化石人骨と推定。縄文人と似ているところが多く、かなり小柄であったと考えられています。日本人のルーツであるともいわれています。

■ 貝塚時代

今から約3千500年前になると、各地に人々が移り住んだと考えられています。各地の貝塚からは、土器や石器など人々の生活の痕跡が発見されています。

☆代表的な貝塚

- ・ 恩納村：仲泊遺跡
- ・ 北中城村：荻堂貝塚
- ・ 宜野湾市：大山貝塚
- ・ 浦添市：浦添貝塚

■ グスク時代の始まり

沖縄では、城のことを「グスク」と呼んでいます。グスク時代は、11世紀頃から始まったと考えられています。

☆グスクの流れ

- ・小高い山の上に土で城壁を固めて作ったグスク：土塁のグスク
- ・石垣をめぐらしたグスク

野面(のづら)積み：加工していない天然の岩石をそのまま組み合わせる
→石の加工道具が発達し、石積みの方法も発展していきます。

布積み：四角に加工した石を一段ごとに積み上げる

14～15世紀になると、強い支配者が弱い支配者を吸収していきます。小さいグスクは滅び、大きなグスクが台頭します。

■ 三山分立時代

各地には、グスクを構える有力者たちが存在していました。これを按司（あじ）といいます。14世紀に入ると、多くの按司たちが束ねられ3つの国にまとまります。

北部の北山王国（ほくざんおうこく）。中部の中山王国（ちゅうざんおうこく）。

南部の南山王国（なんざんおうこく）。

3つの小国家は、たびたび戦を繰り返しました。この時代は三山時代とよばれ、約100年間続きます。

☆3つの王国と代表的なグスク

- ・北山王国：今帰仁（なきじん）
- ・中山王国：浦添、首里
- ・南山王国：大里、玉城（たまぐすく）、糸数

■ 三山統一 第一尚氏王統

15世紀を迎えると、3つに分立していた小国家が統一の方向に向かいます。南山の佐敷按司であった尚巴志（しょうはし）が、浦添の武寧王（ぶねいおう）を討ち中山王国を支配します。さらに北山の今帰仁城、南山の大里城を攻め滅ぼし、3つの国家を統一していきます。

そして、浦添城を中心としていた琉球王国が首里に拠点を移し、統一王朝が成立します。この王統は「第一尚氏王統」とよばれ、7代の王が続きました。

■ 護佐丸の活躍

尚巴志が琉球を統一するにあたり、大きな力を貸したのが中城（なかぐすく）の護佐丸（ごさまる）です。護佐丸は、北山の今帰仁城攻めの際、副大将格として活躍しました。南山を滅ぼした時には、その子どもたちが尚巴志軍とともに活躍したと伝えられています。

☆ 築城家としての護佐丸

護佐丸は、築城家として素晴らしい功績を残しています。座喜味城、中城城の築城に大きく関わりました。

護佐丸は座喜味城を築いた時、これまでの「布積み」といわれる方法に「あいかた積み」といわれる方法を取り入れています。

中城城跡では、三の郭・北の郭に総あいかた積みの素晴らしい技術を目にすることができます。

☆ 3つの石積み

・野面(のづら)積み

加工していない天然の岩石をそのまま組み合わせる技法

・布積み

四角に加工した石を一段ごとに積み上げる技法

・あいかた積み

石を多角形に加工し、互いに噛み合うように積む技法

強度と耐久性に優れています

■ 第二尚氏王統

第一尚氏の後を継いで、第二尚氏を築いたのが尚円王とよばれる王です。この王統は、明治12年(1879)の琉球処分まで続く琉球最後の王朝です。約400年もの長きにわたり、19代の王たちが首里を拠点に統一支配を行いました。貿易や外交活動が盛んに行われ、豊かな文化が育まれた時代でもあります。

■ 尚真王による中央集権とノロ制度

16世紀の初め頃、尚真王が登場します。統一国家ができて情勢が次第に安定していくにつれ、中央集権制を確立していきます。

☆尚真王の功績

①按司たちの統一

各地に乱立していた按司たちとその家臣を首里に集め、武器を取り上げました。自己武装しない士族層が登場し、農村のグスクは地域の祈りの場へと変わっていきます。

②ノロ制度の確立

ノロというのは、各村々の祭祀を行う女性たちのこと。ノロ制度の頂点に立つのは、聞得大君(きこえおおきみ)という女性です。国家の祭祀、繁栄を祈る役割をつとめ、国王の妻か娘、もしくは姪になります。

国家から各村々にいたるまで、ノロとよばれる女性たちがピラミッド式に権威をもつようになっていきます。

③殉死の廃止

国王が亡くなると三司官が後追いの殉死をしたと伝えられています。尚真王はこの殉死を廃止しました。

■ 薩摩の侵入

17世紀に入ると、動乱の時期が訪れます。1609年、薩摩の島津藩が琉球に侵入してきます。

中国、南方諸国との貿易が経済の中心だった琉球王国。薩摩の侵入によって租税を取り立てられたり、中国貿易の利益の一部が持っていかれたりしてしまいます。これ以降、琉球の政治社会は段々と変化を遂げていきます。

■ 沖縄県の誕生

明治12年(1879)の琉球処分によって琉球王国が廃され、沖縄県が設置されます。それ以降も琉球王国時代の行政制度、土地制度が続いていきます。行政制度・土地制度の改革が行われるまでのこの期間は「旧慣温存期」と呼ばれます。

■ 沖縄戦について

近代における沖縄の大きな転機は、昭和20年(1945)の第二次世界大戦の沖縄戦だと考えられます。

昭和20年(1945)の4月1日から6月23日までの約3ヶ月間に渡って沖縄で地上戦が展開されました。

この地上戦では、沖縄県民の9万人余りの犠牲を強いられました。アメリカ軍、日本軍、住民を合わせると24万人余りの犠牲が出たといわれています。

終戦後、犠牲となった多くの人々を悼んで、平和記念公園内に亡くなった方の名前を刻んだ刻名碑が建てられました。ここが世界平和へ向けての発信の場所となっています。

■ 現在の沖縄県

戦後の荒廃の中から沖縄の人々はたくましく立ち上がりました。

美しい自然と豊かな歴史文化。誇るべきものがここ沖縄にはあります。

☆ 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

5つのグスクと4つの関連遺産が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として登録されています。

- ①今帰仁城跡（なきじんじょうあと）
- ②座喜味城跡（ざきみじょうあと）
- ③中城城跡（なかぐすくじょうあと）
- ④勝連城跡（かつれんじょうあと）
- ⑤首里城跡（しゅりじょうあと）
- ⑥玉陵（たまうどうん）
- ⑦識名園（しきなえん）
- ⑧園比屋武御獄石門（そのひゃんうたきいしもん）
- ⑨斎場御獄（せーふあうたき）

これらの中でも、中城城跡は造った当時の 80%の城壁がそのまま残されています。数あるグスクの中でも、一番残り具合がよいといわれています。

野面（のづら）積み、布積み、あいかた積みのすべてを見ることができる「石積みの博物館」。南部・中部・北部の半分が見渡せることから「沖縄が見える場所」ともいわれています。実際に訪れ、五感を使ってその魅力を感じてみませんか。